

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.38 2008年10月号

だいぶ以前のことになりますが、「鈍感力」という言葉がはやりました。渡辺淳一さんの本を読んだ小泉元総理が、この言葉をテレビで発言したのがきっかけだったと思いますが、同書は100万部を超えるベストセラーになったそうです。

この鈍感力ですが、いい意味での鈍感力は、毎日楽しく生きるためには大変役に立ちそうです。誰かに言われた一言がその人にとって厳しい内容であった場合、それを深刻に受け止めていつまでも悩む人もいれば、翌日には（あるいは言われた直後には）何を言われたのか覚えていないように見える人までさまざまです。他人の忠告や周囲の反応をその後の人生にどう生かすかという問題はあるとしても、人生を楽しく幸せに生きられそうなのは後者の人です。また、何の根拠もなく言った他人の一言を都合のいいように解釈するのも鈍感力だそうです。たとえば、「あなたはいつか大企業の社長になるよ」なんて一言を真に受けて、その気になってがんばってしまうのも、いい意味での鈍感力だそうです。

ただ、この鈍感力は生まれつき持っている人と、そうでない人がいますから、鈍感でない人がこの力を発揮するには、それなりの努力が必要になります。他人から厳しいことを言われると、つくよくよしてしまいがちになるところを、「自分が間違っているかもしれないことを気づかせてくれたんだ」と感謝してみるとか、他人からほめてもらったら、意識的にそれを真に受けるようにしてみるとか、何事も前向きに考えてみるような努力です。これは、以前ご紹介したことのある、稲盛和夫氏の「人生の方程式」、

$$\text{人生・仕事の結果} = \text{考え方} \times \text{熱意} \times \text{能力}$$

の「考え方」をプラスにすることを意味しているのでしょうね。

結婚されている方ならよくわかっていただけたと思いますが、結婚生活こそまさに鈍感力が必要になるとは思いませんか？ 相手の言動を気にしすぎていては、とてももたないですよ（笑）。

